



十勝川治水100年
トークリレー ⑪

十勝地域は、十勝川流域の広大な沖積地に位置しており、開拓当初から十勝川に親しむ文化がありました。開拓時代には、十勝川を利用した水運が発達し、農産物や林産物の輸送に利用されました。また、十勝川はサケやマスの生息地でもあり、川漁も盛んでした。

私が子どもの頃は、川は遊び場でした。「川狩り」で皆で料理を作り食べたり、河原で遊んだり、魚釣りを川と親しんできました。ただ現在は、川は危ないからと遊べなくなっています。だからこそ、川の安全教育として川と

生活密着から観光の柱へ

遊ぼう、川と親しむといった活動がたくさんあります。十勝川水系は、北海道を代表する大きな河川の一つで、自然豊かな景観や野生動物、サケやマスなどの川魚が生息していることで知られています。現在でも、十勝地域は十勝川を中心にした観光拠点と

ています。川を利用したコンテンツはもちろん、サイクリングなどを通して川のある美しい景色を満喫するなど、さまざまなアクティビティが出てきており、それらを組み合わせ、川を通して十勝の自然を肌で感じて帰ってもらいたいと思います。

十勝川は、十勝の人の大切な場所から、管外から人を呼べる環境になっていくと考え

十勝がここまで発展してきたのは川があったから。十勝の人々の生活に密着した川を観光の柱として、安全を確保しながら、観光に結びつけていきたいと考えています。

十勝観光連盟会長 梶原雅仁氏



十勝川の治水事業は今年、100周年の節目を迎えた。治水事業と関わりのある関係者の思いや将来に向けたメッセージを紹介する。

(随時掲載)

十勝川治水100年記念事業

トークリレー



十勝観光連盟 会長
梶原 雅仁 氏



十勝毎日新聞
令和5年6月16日 3面 掲載

